

かなでだより

令和3年7月1日発行
7月号

蒸し暑い日が多く、体力が奪われやすい時期になりましたね。食欲も衰えがちですが、しっかり水分と食事をとって夏バテ対策をしたいですね。今回は、「ヘルプを出す」ことについてお伝えします。

こんなことはありませんか？

- ・嫌なことがあったり、困ったことがあっても、「助けて」と言えなくて苦しい。
- ・「助けて」と言いたいけど、だれに、どのタイミングで言えばいいかが分からない。
- ・「助けて」と言いたいけど、どう言えばいいかが分からない。

ヘルプを出せない背景にはこんなことがあります。

ひとりで解決できることがよいと思い込む



人の助けを借りずに、なんでもひとりでできたほうがよいと思い込みがある。

他者に対する意識が薄い



助けてくれる人がいる、あるいは、人に助けを借りようという意識がない。

対人不安・対人緊張がある



助けてもらえなかったらどうしよう、失敗したらどうしようという不安や緊張が強い。

助けを求めても拒絶されると思っている



学校や家庭でも、制止や拒否されることが多い子は、助けを求めてもムダだと思い込んでいる。

他者に頼るという意識が希薄な子どもや、「どうせ助けてもらえない」と諦めてしまう子どもたちについては、適時に適切な支援を受けられるよう、自ら「ヘルプを出す」スキルを身につける必要があります。また、助けを求め、支援してもらってよかったという経験を積むことにより、支援を受ける必要性に気づくことができます。かなでも、物を貸してほしい時や、勉強を教えてほしい時など、子どもたちからの発信を大事にし、自らヘルプを出せるように見守ることを心がけています☆

何かご不明な点や心配なことがございましたら、ご相談ください。

<放課後等デイサービスかなで> TEL : 011-596-9915 HP : <https://www.jyfld.co.jp>